

サロン・あべの

<サロン・あべの> NO. 33 平成 元年 3月18日(土) 発行

【リバティ・おおさか】見学

△サロン・あべの▽二月の出会い

春の訪れが早くなったのか、雨の多い二月であった。サロンのつどいも空模様を気にしながらの開催となったが、平成元年二月一日(土)午後一二時三〇分〜四時の当日は、みんなの思いが天に通じたのか、運よく雨はあがっていた。

「今日参加の人達は、日頃の行ないが良い人達ばかりやで」「ほんま ほんま」と目白替の中、リフト付きバスあゆみ3号は、電動車イス二台、手動車イス一台を含めた十一名を乗せて、大阪市浪速区西三六―三六に在る「大阪人権歴史資料館」リバティ・おおさかへと出発した。阿倍野橋へ出て四天王寺さんを右手に見て西へ、JR芦原橋駅を南へ抜けると、すぐそこにグレーのしゃれた建物があった。

玄関を入ると正面に広々とした中庭が見えた。受付から職員の方がにこやかに出迎えて下さる。さっそくパンフレットを受取り、車イスを二台貸していただく。

ロビーでビデオによる「リバティ・おおさか」についての説明を受ける。

この館は、一九八五年 旧栄小学校跡に

設立され、「リバティ・おおさか」の愛称を持って、人間が幸せに生きる権利と、自由に生きる権利が有ることを祖先の歴史や伝統の中から学びとれるように展示されている。館の活動としては、一、人権問題 二、文化創造と交流 三、サービス提供等があるとのこと。

見学コースの始まりは、交流コーナーの「民話のころ」と題された版画展示。阿倍野神社ゆかりの「葛の葉」物語があった。版画の下に短い文が添えられている。狐の母親を恋慕い、信太の森を訪ねて行く話である。その他に「三年寝太郎」「わらしべ長者」「うば捨て山」「あまのじゃく」「座敷わらし」「一寸法師」等々、幼い頃に親しんだお話が一枚、一枚の鮮やかな版画になって並んでいる。

特別コーナーは、日本職人生活誌「酒・蔵人の世界」展。まず、全国の地酒のラベルがずらりと展示されている。珍しいラベルを見ながら進んで行くと、男性の歌声が聞えて来た。誰かがどこかで、陽気に酒盛りでもしている雰囲気である。不審に思い

ながら次の室へ入ってビックリした。室の中央で二、三人の男性が本当にお酒を汲み



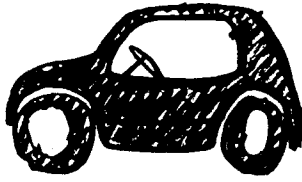
かわしている。見てはいけない気がして横を向くとスピーカーから先程の歌が流れている。酒造りの時に歌う歌で、時計がわりに時間を計る役目もあったとか。昔の酒造りの為の大樽や桶等、色々な道具が並んでいる。「蔵人の一日」「酒ができるまで」「酒の文化史」等々、酒に関する今昔が一目で解るようになっていいる。そして、土曜日（三月二十五日迄）ごとに「日本酒きき酒の日」があり、味わいも出来るとのこと。この日の銘柄は「菊姫・天狗舞・館山・手取川」ちなみに三月二十五日（土）の最終回に味わえる銘柄は「香露・菊の城・西乃関・窓乃梅」

次の室は、人権資料展示コーナーになっている。ユージン・スミス夫妻の「木亥保」の記録写真、森下一徹氏の写真「第五福竜丸」展、丸木位里・俊夫妻の「原爆の凶」そして、ドイツのアンネ・フランクの写真と資料。正面から受止め、忘れてはいけないう出来事でありながら、日々の記憶には遠い存在の出来事である。世界の人権と平和の動きを伝える資料展示室は、日々安穩に生活している私達に鋭い問いかけをしていた。

最後のコーナーでは、大阪の近世、近代の歴史や文化の資料が展示されている。心が和まされたのは、ミニ人形で作られた道頓堀工事のジオラマ。堀の工事に精を出す人足達、道を往き来きする物売りや、町家の商売人、武家道中、その前で犬と遊ぶ子供達、屋根の上で遠くを眺めている火消し等々、町のちいさな出来事や営みがとろせましと再現されている。人形の可愛らしさと、昔の情緒が漂っていて見飽きないコーナーであった。一方では、差別石柱の文字が時代を感じさせられた。「女 牛 馬 境内結界」お寺や山の入口に立てられているたそうで、そこから女人は牛馬と同じ扱いになり入れて貰えなかったとか。

各コーナーには、それぞれのビデオ機械が備え付けられており、見学者は自由に希望するビデオを観ることが出来るようになっているので、興味や関心を持った人達は一巡した後、そのコーナーに戻ってより深い学習をされていた。

一階を口の字に回る道順は、平坦で車いすでも動きやすくなっていた。約二時間の見学では、掴みきれない大きさを感じつつカリバティ・おおさかりを後にした。



今、話題の

三%について

上平 幸雄

四月からの消費税導入に伴って、自動車にかかっていた高率（メーカー出荷価格の一八・五%）の物品税が、廃止になります。消費税は三%ですが、現行物品税との落差が大きすぎるということで、一九九二年三月までは六%の税金がかかることとなります。つまり、自動車が安く買えるようになるのです。しかし、この消費税は障害者

に対しても、同様に課税されるため、事実上の値上げとなってしまふのです。

自動車にかかっていた物品税は、障害者本人が運転する場合や、重度障害者で本人が運転できない場合でも、家族の運転する車には、これまで免除されてきました。ところが、今回物品税が廃止になり、消費税が導入されることにより、六%の消費税が免除されずに、かかってくるしまうのです。

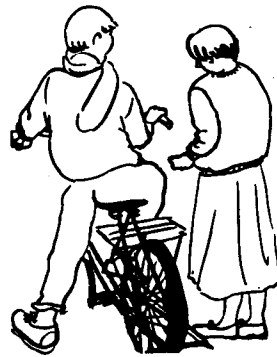
これまでの物品税が、障害者に対して免除されてきた理由は、障害者の自動車利用を容易にし、社会参加を促進することでした。自動車税の免除も同じような理由からだと思います。

ところが、車に限らず、障害者が生活していく上で必要なも

の、そのほとんどすべてに消費税がかかるようになってしまふのです。障害者の経済的負担を軽減し、社会活動を行なう上で必要な自動車等によって、自立の促進を図るといふ、物品税免除の目的が、なぜ、消費税には引き継がれていないのでしょうか。福祉に逆行する税制と言われるのも当然でしょう。

消費税導入の大義名分は、恒常的福祉財源の確保であったはずですが。にもかかわらず、お年寄りや障害者など、収入の少ない人ほど負担の重くなる消費税は明らかに矛盾した税制ではないでしょうか。この税金が、本当に福祉の充実のために、使われていくのかどうか、しっかりと見極めていかなければなりません。たかが三%、されど三%。

気持ち伝える



高校時代というと、すぐに思い出す情景がある。文化祭の準備で、ひとり連夜八時、九時まで学校に残っていたのだが、ひととき入れようと思つて部屋を出てみると、ブルルンツと大きな音をさせて校舎の玄関口にオートバイが入ってきた。ほとんどの通っていた高校は夜には夜間高校として別の学校に変わってしまうのだった。それはおそらく夜間高校の学生らしかった。

オートバイを迎えた、その玄関口は中学校や高校によくあるような広いもので、来客用の大きな下駄箱が並んでいるその場所の床にはきれいなタイルが張られていた。そして入って正面には二階へと通じる大きな階段があったのだ。

その階段の中段には男の学生と女の学生がひとりずつ立っていて、エンジンの音の鳴りやまないオートバイの方を別に驚く様子もなくしばらく見ていた。が、オートバイに乗った男がヘルメットを取るのを待っていたのか、その女学生は突然、はっきりとした大きな声で『わたし、○○さんとはこれからは友達として、おつきあいすることになりました』と言ったのである。

その声があまりに澄んでいたためか、それとも校舎のなかがあまりに静かなためだったのか、ぼくはその言葉が、あたりの空気をすべてを震わせてしまったかのように感じ、すっかり驚いてしまった。そして、何もわからないままに見ていると、オートバイに乗った青年は、頭全体を被ってしま

うような大きなヘルメットを黙つてかぶりなおすと、もう一度、エンジンの音を大きく響かせて、そのまま行ってしまったのである。

その間、階段の中段に立ったままの若い二人は何も言わず、ほとんど動かないままだった。一階にいるぼくからはすこし見上げるような場所にいる彼らは、まるで舞台の上の俳優のように、ぼくがじつと見ていることには何の関心もないようだった。

もう一五年ちかくも前のことなのに、高校時代といえば、不思議なことに、どんな思い出よりも、この情景を真っ先に思い出してしまう。それほど、その情景にぼくはひどく感動してしまつたようなのである。

ところが、なぜそれほどまでに感動してしまつたのか、ぼく自身、よくわからない。そして、いまでもまだよくわからないのだ、最近、なんとなく思いはじめたことがある。

それは『気持ちを伝える』ひとの姿は美しいということだ。『気持ちを伝える』こととのなかには、『感情を表現する』こと以上のものがある。つまり、そこには、その人の『決意』や『約束』や『願い』のようなものが含まれているのである。

『愛』の言葉を考えてみるといい。『あなたを愛している。昼も夜もあなたのことを考えている』というのには、言っている人が自分の心の様子を表現しているだけではないのである。その人は、相手に『約束』

をしているのである。ある種の『決意』を前提にしているのである。そうでなければ、これは『言葉の遊び』にすぎないのだ。

同じように『私は昨夜とても悲しかった』という言葉は、その人の昨夜の心理状態を述べているだけではない。この悲しみをわかってほしいという『願い』、あなたには私の悲しみを知らせようという『決意』がそこにあるのである。

『気持ち伝える』ということは、客観的に自分の心の動きを人に言うことではない。『気持ちを伝える』ことは、伝えようとしている相手との人間関係において、なんらかの『決意』や『約束』や『願い』がこめられているのである。

だからこそ、ぼくは、誰かから『悲しかったこと』『嬉しかったこと』『辛かったこと』などを伝えられると、何か、その人から『贈り物』をもらったような気持ちになってしまう。それが深い気持ちであればあるほど、ぼくは注意深く、感謝の姿勢でもって受けとりたいと思う。

一五年前に見たあのシーンは、成熟した女性とも幼い少女とも言えない若い彼女が、そういう『贈り物』をした瞬間だったのかもしれない。それがたとえやわらかな拒絶の言葉であったとしても、『気持ち』を伝えられるという体験は、ぼくたちにとっていつまでも心に残る貴い宝石のようなものにちがいないのである。(知)

まぢづくりにあな (2)

第一話

あべののまぢづくり

まぢづくりという言葉はいろいろなるところで使われます。

例えば、都市計画の中では「街を造る」ということで住みよい環境をつくることを言いますし、むらおこしと同じような意味で「活気のある町を作る」ということで使うこともありまます。また、福祉の町づくりというときには、「福祉の問題をみんな考えてみんなで解決していくまぢにしていこう」という意味があるわけです。

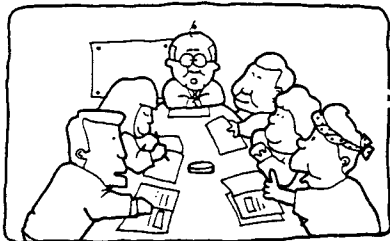
それじゃ、あべののまぢづくりとはどのようなものかと考えてみると、古い家がたくさん残っているので、火事に強い安全なまぢにしないといけないし、反面、落ち着いた町並みは残していきたい。誰でも安心して歩けるようにするには歩道の障害物は取り除いていかなければいけません。

いろいろあるんですが、あべのは大阪市

原田 仁

の中でも人口が減って高齢化の進んでいるところですよ。だからもつと人の集まってくる町にしたい。住んで「いいな」と思える町にしたい。それは、まぢづくりをしていく中で、「住んでいる人々にとって本当は何が必要なのか、何が一番大切なのか」をどれだけ細かく話し合っていけるかにかかっているんじゃないかなって思います。

まぢづくりというのは住んでる人々みんなのためにやるんだ。あたりまえのことですがつい自分の事ばかり考えて忘れてしまったりします。そして、まぢづくりをしていくのも住んでる人みんななんです。





ろうあ運動の現況

一、アイラブ・パンフ普及運動
 「アイラブ・パンフ普及運動」は社団法人全日本聾啞連盟が政府委託事業である「手話通訳制度調査検討事業」の継続と並行して、ろうあ問題への理解促進、手話通訳制度化への支持獲得を期して展開しているもので、各都道府県のろうあ協会、全国手話通訳問題研究会支部、手話関係者の共同により全国的に進められている。
 大阪では、社団法人大阪聴力障害者協会（大聴協）本部を中心に地域ろうあ部会、大阪手話通訳問題研究会（大通研）、手話サークルなどが共同して

全体目標十萬部を市内四万、府下六万に分担して運動が展開されている。昭和五十八年には、「大阪手話通訳制度化委員会」が発足し、大聴協、大通研、全大阪手話サークル連絡会（全サ連）、の三団体による現状把握、調査検討が始められた。「アイラブ・パンフ学習会」なども開催されて、各地の取り組み、現状が報告されている。
 運動全体としてみた場合、市内よりも府下の方が活発で、普及達成率も府下が優っている。これは府下各市が、ろうあ部会とサークルの協力の元に推進チームを組んで統一行動などにより普及を強力に進めているのに対し、市内二十六区のなかには、区聴言協会とサークルの協力関係が十分でなかったり、また、北区のように聴言協会自体が未整備で、サークルとの関係も十分に作れず、運動推進力に欠けるなどの理由から、統一行動を行えない区が存在することや、府下各市に比べて昼間活動するサークルが少ないことから行動に時間的制約を受け易いことなどが原因としてあげられると思う。しかし昭和六十一年夏から、大聴協が中心となり、統一行動を行って、市民生部、福祉事務所、消防署、各団体などと交渉を行い、その成果は上昇している。

お知らせ

△サロン・あべの▽ 四月の出会い

日時 平成 元年 四月十五日（土）

午後一時～四時

場所 有徳コミュニティセンター二階

研修室（阪南町五丁目十五～二八

スロープ、車イストイレ有り）

内容 「こんなところにも消費税が…」

パネラー公認会計士 岩永清滋氏

（手話通訳有り）

会費 なし。

問い合わせ先 ☎〇六一六九一一〇二八

富田慶子迄

日々のよろこび添えて

サロン・あべのに贈るリ灯饰

一月のカンパ合計五二〇円

ありがとうございました。

なんとか してらな

秋野 富美子

バスの中の間答おばちゃん

私は、両股関節症で両松葉杖を使用して
いる障害者ですが、よく市バスを利用しま
す。バスの高い階段をギリギリに、何とか
事故なく乗車出来ませんが、バスが停車して
いる間に素早く空席を見つけて座れ、ば安
心です。でも、時間帯によっては、満員の
場合座れなくても片手は必ず何処かにつか
まって、片手はしっかり杖に力を入れて踏
んばっていれば、何とか可能です。が、二
人用のシルバースートの奥が空席になって
いる場合「すみません」と側に寄ると必ず
と云っていき程「私、次に降りますので」
とか「私、次の次、降りますねん。あんだ
何処まで行きはりますか？」など、全く悠長
な言葉が返って来ます。その間にバスは発
車し、身動きが取れなくなった私に「ここ
らへ どうぞ」と別席から云って下さる善

意の声にも、即座に応じられない状態の私
です。

残念な事にはほとんどが六〇才以上の高齢
のおばちゃんです。

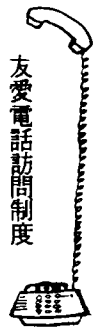
「なんとかしてえくな」この間答おばちゃ
ん。



◆ ボランティアのつどい ◆

今年度の活動報告のまとめと反省会を兼
ねた「ボランティアのつどい」が、平成元
年二月二十五日（土）午後一時三〇分～四時
育徳コミュニティセンター研修室におい
て開催された。

昭和六三年度の「ボランティアのつどい」
は、車イス試乗体験学習・映画観賞・施設
見学等々、七回開催されてきた。その担当
者から簡単な説明があり、それらの内容に
ついて話し合いをした。そして、来年度の取
り組み方や、世話人の人選については、次
回のつどいの時に、具体案を持ち寄ること
になった。この日サロン・あべのからは、
三名が出席した。



友愛電話訪問制度

この春より、シルバートランティアによ
る「友愛電話」の訪問制度が、大阪市高齢
化社会対策室と大阪市老人クラブ連合会に
よって開始される。対象者は、六五才以上
の一人暮らしのおとしよりか、老人夫婦の
みの所帯となっている。

希望される方は、シルバートランティア
に申込みをされると週二回、電話で近況を
訪ねてくれる。

これは、全国で初めての試みとのこと。
申込みと問い合わせ先。

シルバートランティア

電話〇六一六三二一四七六一

走ろう歌おう大運動会

視力障害者と健常者が交流し、理解と友
情を深める目的で毎年多くの人達と様々な
企画を立てて開催しています。今年も5月
末か6月初旬の日曜日に開催予定をしてお
り、実行委員を募っています。又、当会オ
リジナルTシャツ（ライトブルーに当会の
ワンポイントマーク付き1着1200円）
の販売協力をお願いします。

連絡先・乾純一 TEL 0727-72-1505

住所・伊丹市南本町1-2-27

二重に見える話 □□□

独眼竜 菊正宗

入院しますか

「メガネ メガネ」とせっつくので、ハシゴをしたある眼科医は乱視、近視、遠視などの他にプリズムメガネがある話をした。「そのメガネ、それや」と意気込んで検眼はしたが、もうひとつウーんと唸るほどのものではなかった。

もともと複視は眼筋麻痺によってものが二重に見えるものなので、矯正できるものではないのはわかっていたが、わらをも掴む思いで検眼したプリズムメガネも、アカンとなって、この複視はもしかしてCPの後遺症か、頸椎症の再来が原因かも…。けれどCPのものならもっと早いうちに、後者であれば、他の部分にも障害が出るだろう。だとすれば ひょっとして…。意を決して、十年前頸椎症の手術を受けた大病院の脳神経外科へ。

顔の前に鉛筆をたてて「これを眼だけで

追ってください、頭を動かさないで…」

「顔は正面。動かない」

右から左、上から下、下から上、左から右、眼だけで、ゆっくり動く鉛筆を追う。右から左…。鉛筆が何回か目の前を往き来して、止ったとたん

「入院しますか」

「……」

ひょっとしてを覚悟してはいたが頭の片隅ではそうでないことをも期待していたのに、眼球運動だけみて、いきなり入院といわれて、ひょっとしてが頭いっぱい広がって言葉が出ないうちに、横の看護婦さんに

「入院の手配して」

「……」

「ベッド開き次第、早い方がエエ」

たんぼぼ作業所のバザー

四月二三日に開く

開所いらい三年目を迎えた、障害者の働く場「たんぼぼ作業所」では同作業所周辺（西六商店街Ⅱ阪南町六）で四月二三日（日）第三回たんぼぼバザーの開催を予定している。

編集後記

本紙32号の「なんとしてえ〜な」（階段の多い地下鉄）を読まれた方から編集部宛にお便りをいただきました。動く歩道もキライ、動く階段もキライ。動かない階段を利用したいが大へんなので仕方なく動く階段をコワゴワ乗り降りしている。世の中に階段がなければ最高という思いとは逆に高層へ地下へとのびていく昨今の現状。ほんとうに切実な問題ですね。

(石)

<サロン・あべの>第33号

発行日 平成 元年 3月18日(土)

発行・編集<サロン・あべの>運営委員会

[大阪市阿倍野区阪南町6-3-26

電話(06)691-1028富田慶子]

印刷 セルフ社 電話(06)691-2365

[阿倍野区西田辺2-2-10

グレース鶴ヶ丘101号]

定価 ¥60.